

会 長 挨 拶*

山 下 英 男**

このたび情報処理学会が創立されるに当たり、多数会員諸君の御推挙によつて、図らずも初代会長の重任を汚すことになりましたことは誠に光榮に存ずるところであります。ただ非才非力でありまして、果してこの重責を全うすることができるか甚だ心許なく存じますが、本会が名実共に代表的な学会として発展するよう誠心努力する覚悟でありますので、会員および役員諸君の御支援と御鞭撻を切に願う次第であります。

まず本会が創立の運びになりましたことについて、設立発起人として御骨折を戴いた発起人諸氏並びに友好協会の御支援に対して深厚な謝意を表するものであります。また本日の発会式に当たり、中曽根科学技術庁長官および和達学術会議会長から祝辞を戴くことになりましたこと、また後に披露される筈と思いますが、諸外国の情報処理学会会長その他関係者の方々から祝電またはメッセージを戴いた御厚意に対して、厚く御礼を申し述べる次第であります。

本会が創立に至るまでの経過については、さきほど高崎理事より一応報告がありましたが、会長就任に当りまして本会設立の趣旨、事業運営に対する抱負の一端を述べて御挨拶に代えたいと思います。

電子計算機がアメリカに出現して以来、この15年間の短時日の間に、情報処理機械としての計算機とその応用の進歩発達は実に急速でありまして、科学技術はもとより、ビジネス、統計、経済など広汎な分野にわたってその様相を変えようとしていることは周知のとおりであります。欧米先進国ではこれらの学術進歩を図る目的をもって、数年前より Computer Society または Information Processing Society を設立して活動をしているところが多いのであります。

わが国では不幸にしてエレクトロニクス全般、特に計算機の製造技術および応用の方面で相当立ち遅れ

ましたが、最近各方面における関心は異常にまで高まり、既に内外の計算機が相当データ付けられ、または発注されており、計算機の需要は非常な勢で増大する傾向にあります。政府も電子工業振興法を制定し、特に電子計算機の開発には力を尽しており、民間では日本電子工業振興協会のような業者の団体も一昨年から発足しているわけでありまして、しかるに情報処理に関する学術上の代表的団体は組織されておらず、内外の情勢を考え合せてその設立の必要性が有志の間の議に上っております。

たまたま昨年6月パリにおいて、ユネスコが主催して開いた「情報処理に関する第1回国際会議」の際、かねがね各国代表の間で相談されていた情報処理学会国際連合 (International Federation of Information Processing Societies, IFIPS) をこの機会に具体的に結成する議が熟して、その準備委員会が組織され定款案起草し、各国に廻してその加盟を求めることになりました。この連合の主な目

的は、情報処理に関する学術の進歩を図るため国際協力をを行い、4年に1回国際会議を開くことにあり、本部はブラッセルに置かれることになっています。本年1月加盟国は英・米・ソその他合計12カ国に達したので定款が発効することになり、6月に総会が開かれる予定であります。

日本は1951年ユネスコが主催してローマに設立した国際計数センター (International Computation Centre) に関する条約を世界に率先して批准し、早くから国際的に協力をしております。前述のパリの国際会議においても、論文の発表、計算機の展示等により最近の国内の進歩が海外に高く評価された関係から、日本の代表的学術団体が IFIPS への急速な参加が期待されておりました。

このようにして内外の事情を考え合せ本会設立の機が完全に熟し、先程報告された経過を経て今日の発会を見るに至ったのであります。本会の定款案について

* Inaugural address, by Hideo Yamashita

** 東大名誉教授



は後程御審議を願いますが、その目的として第6条にあるように、事業範囲は情報処理の方式と装置、プログラミング、オートマトンおよび計算機の自動制御への応用に関する事項とし、これらの学術技術進歩向上普及を図ることを目的とし、IFIPSに加盟することになっています。

思うに電子計算機は、最初は高度の数値計算をさせるために生れたものでありますが、今日においては数値計算以外に論理的判断、機械の制御、さらに進んで人間の脳のもつもろもろの機能を行わせる可能性をもつこともわかって来ました。すなわち数値計算およびデータ処理は勿論として、翻訳、図形、文字、音声の識別など広い意味での情報処理を行う装置に発展しました。

またアナログ計算機や測定技術と結びついて、オートメーションの中枢部として応い用途が期待されており、電力および通信系統の自動化、運輸交通の自動化、各種事業所、産業工場の無人自動化など産業および社会に重大な変革を来たそうとしているのであります。

これらの事項については本日4人の講演者から述べられると思いますが、本会の対象とする分野は単なる金物としての電子計算機のみでなく、情報処理全般の方式、プログラミング、応用など、理学、数学、工学、生物学、統計学、経済学等極めて広範囲の会員の協力によってその発展が期待されるものであり、本会事業の運営に当ってはこのことを忘れてはなりません。したがって各方面の会員を網羅すると共に関係学協会との連絡協調を十分緊密にやって行きたいと思います。

次に調査研究活動には、専門家による調査研究委員

会を設け活動を開始したいのでありますが、常に海外の進歩に留意することは勿論であるが、国情に即して重点的に問題を取捨選択し、賛助会員の要望をも十分考慮して空理空論に走らず、学術的技術的に有効な成果を挙げ得るよう機動的に運営したいと思います。

学会雑誌の編集は最も大切な事業であります。さし当り隔月1回邦文雑誌、でき得れば年1回海外版を発行する予定ですが、通俗に墮し学会誌としての品位を失うことのないよう努むべきであります。しかし、しばしばわが国の学会雑誌に見られるように徒に独創々々という名のもとに、実際と余り関係のない抽象的、習作的な論文記事が多い雑誌となることは極力避けるべきであります。内外の学術技術上の重要問題の現状が直ちに学会誌に反映して、会誌という広場で正しく論ぜられるようありたいものであります。排他的、独善的であってはなりません。要するに会員諸君に親しみ易い、しかも品位のある雑誌を作りたいと思いますので、会員諸君は傍観的、批判的な態度を捨てて奮って寄稿されることを切望します。

本会は文字どおり揺籃の中にある嬰兒であります。その取扱おうとする範囲は人類生活に重大な関係のある分野であり、その使命は誠に重大といわねばなりません。本会が発展するか否かは会員各自の努力によってのみ成し遂げられるのであります。会員諸君は新しい時代への歴史を作っていく一人一人であることを自覚され、本会発展のため建設的な意見を絶えず寄せられ、本会が健全に育っていくことを切に希望して御挨拶いたします。